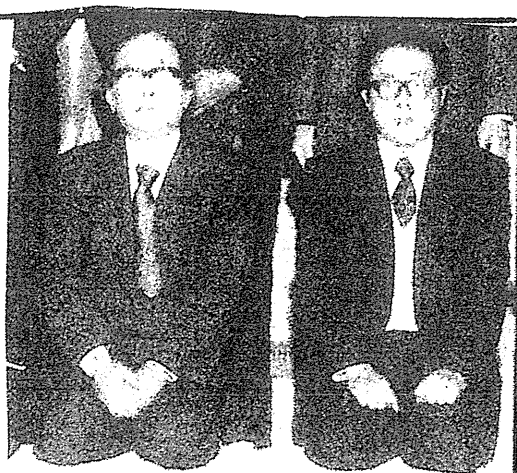
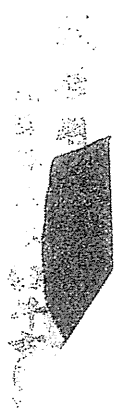




昭和30年11月23日

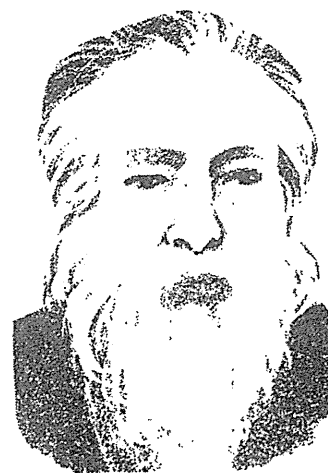
於法藏寺



藤 森 寿 平



窪田畔夫(右)・重平(左)兄弟 重平は松本新聞社長



武居用拙

陽策柔釋耑

求索。不求利。惟則事。以。爲。務。史
 子。嘉。沙。極。易。說。書。卷。之。三。傳。及。報。國
 之。小。辨。一。與。有。地。靈。安。求。第。年。約
 求。欲。時。地。事。員。學。考。堂。國。念。自。由。權
 胃。欲。事。平。多。乞。拉。不。難。致。五。生。沈。教
 中。和。令。傷。事。所。必。會。非。編。險。任。人。之。責
 些。事。是。欲。也。行。者。求。財。亦。亦。一。事。也
 者。多。一。亦。不。遠。求。事。而。求。財。不。能。得
 我。將。其。力。而。氣。神。可。憐。人。雖。入。盤。亦。未。敢。命
 我。求。第。子。致。於。報。志。身。先。死。矣。人。冷。寒。而。得
 多。事。一。盤。今。之。求。者。求。其。利。也。求。其。利。也
 性。公。事。也。此。化。生。亦。求。報。何。以。教。不。能。得。其。利。也。求。其。利。也

武居用秘書

國會開設運動盛上りの時期か？
活用秘書
秘策求索死を悼み、下は藤森の求索像

自玄自田不事小義
秋索索蘭時

长松老人行

藤森寿平 長野県国会開設運動を導いた人

17年8月

- ★はじめに 遅れている実像の伝播 ●安曇野市での先人顕彰の前進（安曇野市HP「安曇野市ゆかりの先人たち」寿平あり→安曇野市教育会HP「安曇野の偉人」寿平なし）
- 没後100年記念顕彰事業（豊科町公民館中心） 長野県国会開設運動との関連重視
記念講演・展示会・顕彰碑（武蔵野の径）・子供向け伝記本発刊 趣旨徹底不十分
- 白井吉見の未完の絶作『獅子座』に描こうとしたのは、寿平主宰の武居用拙塾
- 現在の自由民権運動の歴史研究の遅れと偏り 高知主導史観 板垣退助 家永三郎の「植木枝盛」（「東洋大日本国憲按」） 昭和50年代の全国的自由民権研究・顕彰の高揚→松沢求策顕彰会も参加・交流
- 国会開設運動直視の重要性 拙著『鋤鋤の民権 松沢求策の生涯』、『常念山麓』
「高遠の道」藤森寿平伝（「安曇野文芸」6～9号、ノンフィクション小説）

★藤森寿平とは 1835（天保6）－1905（明治38） 豊科・成相新田出身
諏訪の武士からここに移住・帰農し、集落創設、大庄屋も努める家系 桂谷の画号
業績「ゆかりの先人」では「法蔵寺で実践社、武居用拙塾を興し、南安曇郡の近代教育
の先駆、長野県国会開設運動の推進。日本画家」 ①

②推進

③継承

★②寿平と武居用拙塾と長野県国会開設運動（前編） ①③は後編

武居用拙塾

木曾・山村氏の青莪館教授 漢学者 明治維新で閉校・失職 窪田救済
明治8年創設（生涯の親友・窪田畔夫－日本画家・古曳盤谷の弟子仲間・
和田村一の紹介）正確には、豊科学校変則課（校長は藤森寿平）教場は法蔵寺
明治17年閉校（県立中学校設立と共に） 自由な教育 学区も広い。
教え子 松沢求策 降旗元太郎（普選運動）今井五介（片倉）など。

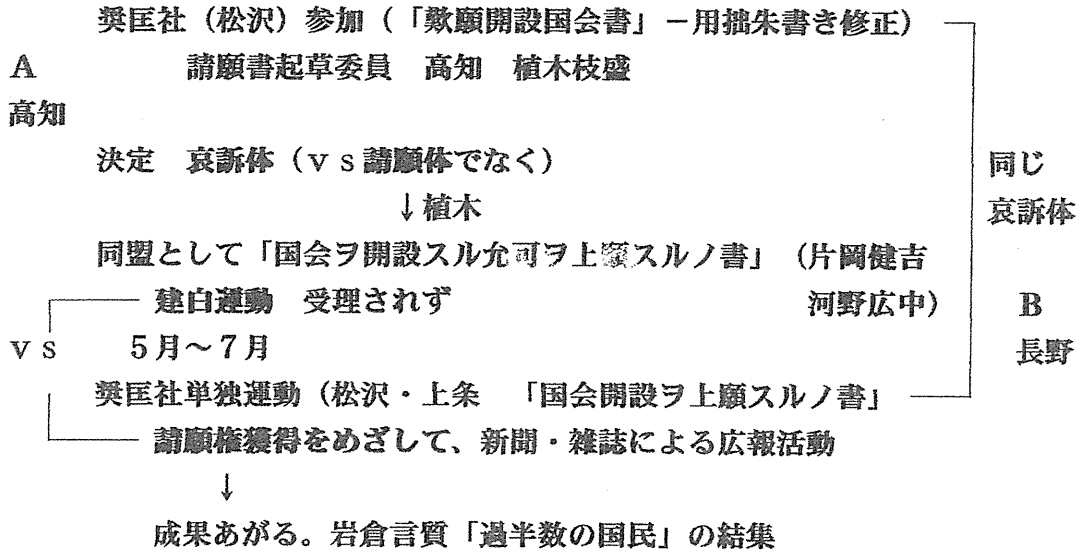
時代に対応する政治教育を実施

民権思想の培養 窪田が弟・重平と始めた松本新聞との提携 多田加助研究と
それを手本とした国会開設運動の理論・戦略の構築により長野県国会開設運動の
拠点となる。猶興義塾（用拙命名 政治学社 坂崎斌と松沢求策浅間に計画・失敗）
→英匡社（〃 長野県国会開設結社 藤森・武居・窪田創立委員）→国会開設請願
書（用拙指導 松沢携帯・上書）

加助顕彰と国会開設運動 明治13年 加助200年祭と国会開設運動 ともに実
施計画したものの200年祭は行なわれなかった。その時創られ準備されたもの
①浅井淵「多田嘉助の歌」②用拙撰文「貞享義烈碑」（寿平の依頼による。「民権
の宗（先駆）」の記載。現在貞享義社境内に碑あり。設置の経緯は後編で）

★長野県国会開設運動の理論と戦略（高知との比較から）

明治13年 3月 愛国社大阪大会（高知主導）→国会期成同盟



11月 国会期成同盟東京大会（高知の後退、松沢勢力の前進）
 癸匡社（松沢、太田伯一郎、上条）
 松沢の政党結成の提案→自由党準備
 同盟常務委員に 選出の争い 高知派委員も
 14年秋の次回大会に準備する事項の決定
 国会開設同意の過半数の確保
 憲法見込み案の研究・持参

14年 東洋自由新聞発刊

” 事件（西園寺社長の内勅による退任→松沢の檄文・入獄）

?

↓

10月 政府 国会開設の勅諭 高知 自由党創設（板垣）
 10年後議会開設

22年 大日本帝国憲法発布 請願権の規定実現

23年 帝国議会開設